

## 小中陽太郎様を追悼する

近藤 節夫 (エッセイスト)

12月3日長らく病床に伏せておられた小中陽太郎様が、眠るように天に召された。6日キリスト教会の葬送礼拝式で最後のお別れを告げると、悲しみとともにこれまでの懐かしい交流の思い出がどっと甦って来た。

小中様の平和への願いと行動の真骨頂は、何といっても1965年ベトナム反戦運動の最中に、市民とともにその中心となって結成した「ベ平連」であろう。その活動は、67年4月3日付ワシントン・ポスト紙全一面に、岡本太郎が書いたロゴ「殺すな！」を使ったベトナム反戦広告を掲載して日米両国内に大きな反響を呼んだ。同年10月には横須賀港米海軍基地へ入港したベトナム戦線へ向かう米空母「イントレピッド」から、脱走した4人の米海軍兵をベ平連の仲間とともに匿い、正義感に溢れた小中様もその中の1人を一時引き取り、その後スウェーデンへ亡命させた。

小中様にはこれまで随分お世話になり、人生の先輩として多くのことを教えていただいた。いくら感謝してもし過ぎることはない。お酒好きで話好きだった小中様は、誘われればいつでもどこへでも気さくに出かけられた。小中様を囲む飲み会は「ヨタロウ会」と呼ばれ、多くの心安い仲間が群れ合った。人を温かく包み込み、いかなる考えにも耳を傾けて聴いてくれる包容力は、持ち前のリベラルな考えとともに小中様の親しみやすい誠実なお人柄を表している。

小中陽太郎様とは、60年安保闘争を主導した当時の全学連書記長をお互いに知っていた関係から親しくなった。安保の後ベトナム反戦運動に関わるようになり、ひとり戦時中のベトナムへ出かけて危機一髪目に遭ったが、小中様にはその積極的な行動力を評価していただ

いた。ベトナム反戦は2015年4月都内芝公園のベトナム戦争終結40周年記念集会まで続いた。

30余年前若気の至りから某新聞の的外れな論説と理不尽な対応に憤りを覚え、単身新聞社へプラカードを掲げて乗り込もうとした直前に、相手は主張を撤回しないし、反って私の人格に傷がつくので、止めるよう懇々と諭され取り止めたことがあった。社会的行動には、いつも父親のような温もりのある視点からアドバイスをいただいた。処女出版書表紙帯に推薦文を書いていただいたり、出版記念会の都度お心の籠ったお祝いのおスピーチをしていただいた。

大学教授としても教える立場上、その信念がぶれることは決してなかった。不条理な社会に対する正義感を行動で示し、私にとっては常に正義の行動規範を教えられているように思っていた。

最後のご対面をした時、あ～！もう逝かれてしまった、これが永遠のお別れだと思うと無性に悲しく、寂しく、悔しかった。もっと会ってまだまだお話がしたかった。

小中陽太郎様！どうぞ安らかにお眠り下さい。



平和と団結を訴える小中様 (左：近藤)  
ベトナム戦争終結40周年 (2015年4月30日)  
記念集会にて (4月26日、於：東京都港区芝公園)